

漁業と林業と有機農業のまち 尾鷲市



「漁業と林業のまち」として栄えた本地域では、60年ほど前は甘夏栽培が一世を風靡し、伝統野菜の「虎の尾」など、野菜や米も多く栽培されていました。しかし、甘夏はデコポンなど優良品種の登場により儲からなくなっていき、それにより後継者も育たなくなり、以前の農業の勢いは徐々になくなってしまいました。

こうした背景のもと、令和4年3月に、気候変動対策とネイチャーポジティブを同時に解決するための行動の規範としての「尾鷲市ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。

農業の分野においては、農地が地域の文化や自然環境を未来へ伝える場としても更に発展するよう取組を進めていくために、「道法スタイル」という肥料を一切使わない有機農法を取り入れ、今ある甘夏や虎の尾など現存の農産物の付加価値を高めることに加え、新しい品種の栽培にも挑戦することにしました。

農地面積が少ない中で農家の所得向上を達成するためには、高付加価値の農産物の生産に力を入れていく必要があると思います。尾鷲市をネイチャーポジティブな「漁業と林業と有機農業のまち」にすることを決意し、ここに「オーガニックビレッジ」を宣言します。

令和6年1月20日

尾鷲市長 加藤 千連